

JF グルメフェスタ開催!

当社も阪神淡路大震災で経験したことです。震災発生時の私たちフードサービス業に携わる者にできる最大の社会貢献は、店舗をより早く復旧し、営業再開することだと思います。

当社は、「私たちは、食を通じて社会に貢献します」をフィロソフィー(企業哲学)とし、地域になくてはならない企業となることを目指しています。今回の東日本大震災は、自社の店舗が無い東北地方が中心のため、どのような支援を行うべきか検討を重ねました。大手企業として期待されるのは、継続的な支援です。3月末の日本赤十字社を通じて、寄贈した義援金1千万円、4月末の震災支援募金466万円を東北4県の義援金として届けたことなど、お客様や、当社の従業員、皆様のご協力をいただいで緊急支援を行いました。さて、これからは、復興支援です。85号の業界ニュースでもお知らせの通り、7月30日と

7月31日の2日間にわたり

岩手県遠野市にある道の駅を会場とした日本フードサービス協会主催の「東北に元気を! JFグルメフェスタ」へ『天井店』を出店しました。永井人事総務本部長をリーダーとする復興支援プロジェクトを発足し、設備や食材供給や運営人員の確保について、全社を上げて取り組んでいます。

現地会場で奮闘された精鋭5人の運営メンバーの皆さん、大変な天候の中、本当にご苦勞様でした。

さらに、今月8月13日(土)には、津波被害が大きく報じられた宮城県名取市内で第2回グルメフェスタが開催されます。引き続き、当社は天井店を出店し、被災地の皆さんや、支援活動に従事している方々に喜んでもらえたらと思っています。

それでは、復興プロジェクトの運営メンバーから、遠野市会場のレポートです。

復興支援プロジェクト

秋山和則

去る7月30日と31日、被災地復興支援の一環として、社団法人日本フードサービス協会(JF)の御旗のもと、岩手県外食産業協会と協力してグルメフェスタが開催されました。

場所は柳田國男の『遠野物語』に代表される数多くの民話や伝承のある岩手県遠野市です。同市は岩手県の内陸部と沿岸部の中間地点にあり、自衛隊やボランティア等の活動拠点としての役割を果たしています。そんな遠野市内にある道の駅「遠野風の丘」を会場にして、グルメフェスタは開催され、JF会員企業17社が出展しました。被災者や仮設住宅の居住者、ボランティアスタッフ、また移動途中の観光客の方々に「いつもの外食」を楽しんで頂けるように、各社が多彩なメニューを100円から500円までの価格帯で準備しています。またグ

ルメフェスタ開催日には大型バス2台で仮設住宅や避難所へ送迎を行い、また日常生活を取り戻せていない方々にも楽しんで頂きました。

我々は、看板商品の一つである天井を200円で提供することとし、1ヶ月前から準備に取り掛かりました。東北という、かつて我社が出店したことがない地域で、さらに屋台のようなテントでの販売等、初めてづくしの事ばかりで戸惑いながらのスタートでした。

開催までにはいくつかトラブルにみまわれながらも、何とか前日に搬入・設営を終えて、当日(30日)の朝を迎えました。10時から開催のセレモニーの中で、遠野市長の挨拶などもあり、遠野の伝統芸能である「しし踊り」が披露されるなど、グルメフェスタは盛大に始まりました。

1日目

10時の開店を迎える頃、横のブースでアイスクリームを売っているサーティワンアイスクリームが、少しずつ売れ始

めました。その頃の、我が「天井」とのブースは・・・数名の方々がこちらの様子を見ながらも素通りされる。

「大丈夫なのか？」と不安がよぎりましたが、あれよあれよという間に行列が出来てきます。途中から降り出した雨もなんのその。そこから出来た行列はまったく解消されることなく、気がつけば15時半過ぎになっていました。初日の予定数500食をはるかに超え、初日の販売を終了しました。



2日目

2日目(31日)の営業前、各ブースは、初日の午後から始まった「タイムセール」の値下げ価格からスタートする中、我が「天井」とは変わらず「フルタイムセール」価格で販売開始。前日以上に地元の方々にご支持頂き、開店早々から飛ぶように売れていきました。JFのスタッフの方々も、フェスタの目玉となった「天井」と「なつては困るとばかり、午後になると心配そうに「まだ(商品が)ありますよね」と何度も尋ねに来られていました。

こうして盛況のうちに15時で完売となりました。2日間で用意した1200食分の器や食材と、メンバー全ての体力も使い切りましたが、遠野でのグルメフェスタは無事終了しました。営業中には、地元の方々から「どこから来たの?」「お店はどこにあるの?」などの質問やお声掛けをしばしば頂きました。

雨の中も常に長蛇の列



2日間で3回もご来店頂いた方もいらっしゃいました。当社の天井を好意的に受け入れて頂けたとうれしく思っております。

次は8月13日に、宮城県名取市の閉上(ゆりあげ)中学校への出店を予定しております。皆さんもご存じの通り、閉上地区一帯は津波の被害が甚大で、約900名の方が犠牲になり約100名の方が、未だ行方不明です。今なお敷地内に2隻の廃船が撤去され

永井人事総務本部長(中央)も、チームを激励に訪れました。



ずに残っている状態です。そんな中、地元の方々が「名取を復興させたい。ゆりあげの町をなくさない。」という強い思いで「鎮魂灯籠流し」行事を行います。

我々もその復興の為の行事に「食を通じて社会に貢献します」という心で、支援していきたいと思えます。



2011. 7. 31 岩手日報より